

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2008

課題番号：19330162

研究課題名（和文） 実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用

研究課題名（英文） Archive and application of historical instruments for experimental psychology

研究代表者

長田 佳久（OSADA YOSHIHISA）

立教大学・現代心理学部・教授

研究者番号：00133455

研究成果の概要：

本研究では、国内で行われてきた実験心理学研究に関連した機器や資料の現状の把握、保管方法の検討及び活用方法に関して検討した。本研究活動の成果として、1) 国内の研究機関で保管されている機器の状態の把握、2) 廃棄予定の機器の移設、3) 機器・資料のデジタルアーカイブ化、4) 機器・資料の閲覧方法の検討の4つが挙げられる。これらの成果を通じて、日本の実験心理学の歴史的資料を残し、伝えるための手法に関する基盤を築いた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	7,000,000 円	2,100,000 円	9,100,000 円
2008 年度	7,000,000 円	2,100,000 円	9,100,000 円
年度			
年度			
年度			
総計	14,000,000 円	4,200,000 円	18,200,000 円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・実験心理学

キーワード：心理学史・実験心理学

## 1. 研究開始当初の背景

心理学は我々人間そのものの特性を科学的手法によりに探究してきた数少ない領域であり、自然科学や科学哲学の領域においても注目を集めてきた。心理学の草創期からの資料や研究発展の経緯、またそれらを支えて

きた実験機器は心理学固有の歴史ではなく、他領域における諸科学の歴史とも関連を持っている。しかしながら我が国では医学や哲学に比べて、学問史に関する関心が高いとは言えず、研究機器に関する歴史的資料の保存活動やその制度化に関しては諸外国に比べ

大きく遅れている。特に心理学研究を支えてきた古典的な実験機器はその大きさと、操作可能な知識を持った研究者の減少が災いし、これらを保有している諸研究機関での保管状況は悲惨の一言に尽きる。

現在、コンピュータの発展による保存メディアの移行や研究機関の移築に伴い、これら機器や史料がその価値を見いだされず廃棄される可能性が危惧されている。心理学が科学として万人に広く理解され、発展していくためにこれまでの研究の経緯や心理学史に関する資料のアーカイブ化、及び収集・保存などの制度化が必要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

第一に、日本国内に存在する心理学に関する古典的実験機器の保管状況の把握を目的とする。保管状況の記録から、機器の情報が閲覧できるデータベースを作成し、本研究活動と機器の情報を共に国内の研究者に把握させる。これらの情報の把握が、古典的実験機器が価値を理解されないままに廃棄されていくことを回避する一端を担うと考えられる。第二に、古典的実験機器の収集方法や管理場所の検討を行う。各研究機関において、機器の重要性がわかっていながら管理の困難な機器や、移送の困難な機器の存在が予想される。その対処法及び保管場所の明確化が、近い将来、心理学に関する実験機器の展覧会等を行う際の円滑な方法確立の大きな一歩となると考えられる。

## 3. 研究の方法

様々な学会を通じて国内の研究機関に古典的実験機器の保存・展示に関する呼びかけを行う。呼びかけの方法として、国内における心理学の諸学会でのポスターによる呼びかけと、学術雑誌への記載による呼びかけを予定している。また、協力を得られた研究機関における古典的実験機器の状態、保管状況の調査とデータベース作成を行う。これにより、国内での古典的実験機器に関するアーカイブ化が円滑に行われることになるだろう。

従来の古典的実験機器に関する研究計画では、写真によるアーカイブ化や保存場所などに関する調査が主であった。本研究では、“動的な展示を行う博物館”をめざし、機器を可能な限り動作可能な状態を保ち、またそれらが生み出す現象に関して、だれもが観察できる施設の基礎を作成することを目指す。また、これらの機器全てに関して、動作や構造の把握できる状態でのアーカイブ化を行い、web上での動的な閲覧に関して検討する。

併せて、移送可能であると判断された古典的実験機器を収束させ、古典的実験機器展示の移動ミュージアム開催の準備を行う。設置可能な場所や施設を協議し、実験機器の意義と効果的に展示できる手段を構築する。これにより、協力を得られた研究機関への成果報告と、古典研究機関の枠を越えた本研究活動のアピール及び機器保管の呼びかけが可能となる。これらの具体案が形作られ妥当性が認められることで、今後より大きなプロジェクトへの進展が可能となり、サイエンスミュージアム設立や、全国各地での展覧会などの教育を目的とした古典的実験機器の活用が円滑に行われることが予想される。

## 4. 研究成果

国内主要研究機関において、実験機器の保管状況に関して調査を行った結果、以下の傾向がみられた。1) 以前より、古典的機器保存・展示活動を行っていた機関は、広い年代の多岐にわたる機器を所有している。2) 上記以外の場合、所有していないか、所有していても整備されていない機関が多いことが明らかになった。また、この調査を行ったことによって、廃棄予定だった機器の譲渡依頼を受け、立教大学へと移送した。

これら収集した機器を展示し動作させるミュージアムを開催した。このミュージアムを通じて、高校生や中学生に“ヒトの特性を測る”とはどのようなことなのかを体験させたところ、高い評価を得た。また、ミュージアム開催時に、これまで使用用途不明だった

機器に関する新たな情報を得ることができた。

機器の使用状況や、先行研究に関するオーラルヒストリーの映像を撮影した。これらの映像及び紙媒体の史料のデジタル化を行い、PC上での閲覧に適した方式を検討した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① サトウタツヤ  
「心理学の過去は長い歴史は短い」宣言から 80 年 『心理学ワールド』41 巻 2008 年発行 33, 査読無
- ② サトウタツヤ  
統計で疲れたらビールで乾杯?! スチューデントの t 検定とギネスビールの関係 『心理学ワールド』42 巻 2008 年発行 33, 査読無
- ③ サトウタツヤ  
起源神話? 1908 年は社会心理学が始まった年?! 『心理学ワールド』43 巻 2008 年発行 33, 査読無
- ④ サトウタツヤ  
ヴントのお墓に行ってきました。『心理学ワールド』44 巻 2008 年発行 34, 査読無
- ⑤ Oyama, T.  
Development of psychophysics in Japan. . Japanese Psychological Research, 50, 2008, 183, 192 査読有
- ⑥ 西川泰夫  
千葉県郷土史: 近現代史の一断面: 幕末から開明期に於ける佐倉藩士と洋学「西国の心学、心理学」との接点 放送大学研究年報 2008 年発行 26, 25-37 査読無
- ⑦ 西川泰夫  
心理学論考ノート — 認知空間の幾何学的構造 — 心理学史・心理学論 9 巻 2007 年発行 1, 18 査読有

[学会発表] (計 11 件)

- ① 大山正  
盛永四郎の生涯と業績 日本基礎心理学会 2008 年 12 月 6 日 仙台国際センター
- ② 藤健一 内藤耕次郎の色聴図について 関西心理学会 2008 年 11 月 9 日 奈良女子大学
- ③ 高砂美樹  
国内外のアーカイブ活動の比較 日本心理学会 2008 年 9 月 19 日 北海道大学
- ④ サトウタツヤ  
臨床心理学史の可能性 第 11 回心理学研究会 2008 年 3 月 2 日 東京国際早稲田サテライト 4 F
- ⑤ 鈴木光太郎  
新潟大学に現存する古典的実験機器装置について 新潟心理学会第 44 回大会 2008 年 3 月 15 日 クロスバルにいがた
- ⑥ 高砂美樹  
ドイツの「心理療法士法」をめぐって 第 11 回心理学史研究会 2008 年 3 月 2 日 東京サテライト早稲田 4 F
- ⑦ 辻敬一郎  
心理学史研究の諸側面—杉崎瑠の教育・研究業績を例にして— 東海心理学会第 56 回大会 2007 年 5 月 19 日 中部大学
- ⑧ 辻敬一郎  
心理学者, 杉崎瑠の教育研究業績 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日 東洋大学
- ⑨ 辻敬一郎  
杉崎瑠の教育実践指導とその成果 第 11 回心理学史研究会 2008 年 3 月 2 日 東京国際大学早稲田サテライト 4 F
- ⑩ Oyama, T.  
Some Important Scenes in the History of Psychophysics in Japan The 23rd Meeting of the International Society of Psychophysics 2007 年 10 月 20 日~ 23 日 東京国際交流館

⑪ 大山正

盛永四郎の生涯と研究を追って 第 11  
回 心理学史研究会 2008 年 3 月 2 日  
東京国際大学早稲田サテライト 4 F

[図書] (計 1 件)

① サトウタツヤ (共著)

『精神分析』戦前編 別冊 解説・総目  
次・索引 不二出版 2008 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長田 佳久 (OSADA YOSHIHISA)  
立教大学・現代心理学部・教授  
研究者番号：00133455

(2) 研究分担者

(2007 年度のみ。2008 年度は全員，連携研究  
者)

(3) 連携研究者

石井 澄 (ISHII Kiyoshi )  
名古屋大学・環境学研究科・教授  
研究者番号：70092989

行場 次朗 (GYOBA Jiro )  
東北大学大学院・文学研究科・教授  
研究者番号：50142899

金沢 創 (Kanazawa sou)  
日本女子大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号：80337691

三浦 佳世 (MIURA Kayo )  
九州大学大学院・人間環境学研究院人間科学  
部門・教授  
研究者番号：60239176

山口 真美 (YAMAGUCHI MASAMI)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：50282257

荻阪 直行 (Osaka Naoyuki )  
京都大学大学院・文学研究科・教授  
研究者番号：20113136

藤 健一 (FUJI KENICHI )  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：20097885

佐藤 達哉 (SATO TATSUYA)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：90215806

箱田 裕司 (HAKODA Yuji )  
九州大学・人間環境学研究院・教授  
研究者番号：50117214

鈴木 光太郎 (SUZUKI Kotaro)  
新潟大学・人文学部・教授  
研究者番号：40179205

櫻井 研三 (Sakurai Kenzo)  
東北学院大学・教養学部・教授  
研究者番号：40183818

西川 泰夫 (NISHIKAWA Yasuo)  
放送大学・教養学部・教授  
研究者番号：70053642

鈴木 清重 (SUZUKI Kiyoshige )  
立教大学・現代心理学部・助教  
研究者番号：30434195

増田 知尋 (MASUDA Tomohiro)  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機  
構・食品総合研究所・特別研究員  
研究者番号：60449311

佐藤 隆夫 (SATO Takao)  
東京大学・人文社会系研究科・教授  
研究者番号：60272449

吉村 浩一 (YOSHIMURA Hirokazu)  
法政大学・文学部・教授  
研究者番号：70135490

鈴木 公洋 (SUZUKI Kimihiro)  
大成学院大学・人間学部・講師  
研究者番号：00388670

椎名 健 (SHIINA Ken )  
文教大学・人間科学部・教授  
研究者番号：70093599

本間 元康 (Honma Motoyasu)  
立教大学・現代心理学部・助教  
研究者番号：20434194

高砂 美樹 (TAKASUNA Miki )  
東京国際大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：40261763

仁平 義明 (NIHEI Yoshiaki )  
東北大学・文学研究科・教授  
研究者番号：10007833

和田 有史 (WADA Yuji )  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構・食品総合研究所・研究員  
研究者番号：30366546

(4) 研究協力者

大山 正 (Ooyama Tadasu)  
研究者番号：50008942

鷲見 成正 (SUMI Shigemasa )  
慶應義塾大学・名誉教授  
研究者番号：00051285

増田 直衛 (MASUDA Naoe)  
慶應義塾大学・文学部人文社会学科・教授  
研究者番号：60118510

松田 隆夫 (Matsuda, Takao)  
立命館大学・文学部心理学科・教授  
研究者番号：00035312

辻 敬一郎 (Tsuji, Keiichiro)  
名古屋大学・名誉教授  
研究者番号：20023591

古崎 敬 (Kozaki, Takashi)  
慶應義塾大学・名誉教授  
研究者番号：60051281